

ミャンマー、ラカイン州の州都シットウエの周辺にわずかに残る、ロヒンギャの村に入ることができた。悲惨な襲撃事件のあとも、危険を承知で残り続けた人々たち。「私たちはバングラデシュ人ではない。ロヒンギャだ!」と言う言葉が心に沁みた。帰り道、ミャンマーの化粧であるタナカを顔中に塗った女の子と出会う。

2019年度 ジュマ・ネット 活動報告書



2018 年度 ジュマ・ネット活動報告

1 平和促進活動

(1) ロヒンギャ難民の課題と問題について日本社会へ伝える活動

ジュマ・ネットは、2016年、2017年に発生したロヒンギャ難民問題について、2018年度も迅速に緊急支援を実施するとともに、日本国内でも、ロヒンギャ問題の真相や背後にある課題についてアピールの場を以下の通り求めてきた。

- 6/18 仏教 NGO ネットワークの総会でロヒンギャ問題の実態を報告(東京)
- 7/21 ソーシャル・ジャスティス基金の学習会でロヒンギャ問題の背景を報告(東京)
- 10/7 東京外国語大学で主催されたシンポジウムでロヒンギャ問題のミャンマー側の政治課題を方向(東京)
- 3/14 聖心女子学院大学のロヒンギャ問題に関するシンポジウムで、コーディネーターとして 参加(東京)

(2)「コルポナ・チャクマはどこ?」のフィルム上映会



YouTube にアップされた「コルポナ・チャクマはどこ?」の動画

2017年度は1996年に発生したコルポナ・チャクマの誘拐事件の真相を求める運動の高まりを受けて、ジュマ市民の運動の意義を確実なものにすることと、国際世論をさらに高めるため、事件に関係する当時の関係者の証言と事件の顛末をまとめたショート・ビデオを作成した現地での撮影と編集作業がやや遅れたが、2017年6月にはすべての作業を終了し、「コルポナ・チャクマはどこ?」関係者が閲覧できるようにした。

このフィルムを6月30日総会の会場で ある見樹院(東京都文京区)場で上映し、

コルポナ・チャクマの真相解明とチッタゴン丘陵の人権侵害の停止を訴えた。

閲覧用の URL は以下のとおりである。

日本語バージョン https://www.youtube.com/watch?v=rRE0qij-UPI

英語バージョン https://www.youtube.com/watch?v=HGNoAGWf1Uw

2 被害者支援活動

(1) ロヒンギャ難民支援活動

2016 年 10 月 9 日に発生したミャンマー警察 9 名が襲撃殺害した事件に続き、2017 年 8 月 25 日、再び武装したロヒンギャ・グループが警察所などを襲い、30 名の死傷者を出す事件が発生した。これに対抗してミャンマー軍による熾烈な掃討作戦が展開され、70 万人を越えるロヒンギャ難民がバングラデシュに流入し、世界中を驚かせた。

しかしバングラデシュとミャンマー両国で締結された帰還作業は進まず、ロヒンギャ難民のキャンプ滞在の長期化がほぼ確定的となる中で、キャンプ生活の安定と生活環境の充実が課題となっていった。

ジュマ・ネットとして、2018年2月にキャンプ内の詳細な調査を行った結果、衛生環境の課題が指摘され、ジュマ・ネットとしては低コストで即効性が高い簡易トイレの設置支援を決定した。キャンプ内ではトイレの数が少ないことと、多くが共同トイレとして設置運営されており、清掃などが徹底されていないことや、女性が使いにくいといった声が多かった。

ジュマ・ネットとして、難民キャンプ周辺で活動を展開していた PLUSE という現地 NGO と連携をとりテンカリ・タジミアコラ・バーマパラ 13 キャンプに、156 基の簡易トイレの設置を 7月から8月にかけて行った。8月後半には、現地を視察し、簡易トイレが適切に





テンカリ・タジミアコラ・バーマパラ 13 キャンプに取り付けらえた簡易トイレ



アブドゥルさん一家。一番右の男性がアブドゥル・アミさん

トイレを受け取ったアブドゥル・アミさん一家に聞きました。(2018年8月間き取り)

- 家族は何人ですか?

「子ども6人で、全員で8人家族になります」

- ここに来る前はどこにいましたか?

「ミャンマーのボディバザールというところにいました」

- いつここに来ましたか?

「とてもミャンマーにいられなくなり、1 か月前にここに逃げてきました。ここまでにくるのに 1 週間近くかかりました」

- ここでの生活はどうですか?

「食料配給もあり、なんとか生活はできていますが、肉や魚を買う現金収入がなく て困っています。また、料理のための薪も手に入りません。また、大勢の人が住む ようになり、キャンプ内の衛生状況があまりよくありません」

- ミャンマーに帰還する予定はありますか?

「ミャンマー政府が私たちの安全を保障し、将来国民として扱ってくれるのであれ ば戻りたいと思います。今の状態では帰還しません」

- このトイレができて便利になりましたか?

「これまで共同トイレしかなくて、並んで待たなくてはならず、大変でした。。特に 娘たちは共同トイレを使うのを嫌がっていました。共同トイレは、責任をもって 誰も掃除をしないので、汚れていることが多く、正直つらかったです。今は快適に使え て、本当に快適になりました」



トイレにはジュマ・ネットのシールと通し番号が貼られている↩

に設置していることを確認した。↩

□計画では 155 基の簡易トイレの予定だったが、 結果的に 156 基設置することができた。これら のトイレは水分が地下に染み込むシステムにな っており、家族数にもよるが、6 年から 10 年近 く使用が可能である。←

÷.

(2)□紛争被害児童・生徒への奨学金支援活動←

□紛争や襲撃事件で親を亡くし、またはレイプ被害にあった児童・生徒の教育支援を 2009 年から開始し、現在もこれを継続している。

2018 年度は 11 名の支援児童・生徒が寄宿学校モノゴールの生活に慣れ安定した勉強を続けた。病気により耳の障害を持ったリクについては治療の見込みはなく、<u>障がい</u>者教育施設などの可能性を検討したが、本人の希望により、勉強を続けていくことになった。しかし、成績の状況などを見て、次年度に再度調整する予定である。(支援児童・生徒の詳しい情報は 5p を参照)←

4

3□知らせ・交流する活動と運営体制↔

4

(1)□イベントへの参加または実施

□また、9月29日、30日に開催されたグローバル・フェスタにジュマ・ネットとして出展 し、チッタゴン丘陵、ロヒンギャ問題について広報活動を行なった。また会場でのワーク ショップブースで、ロヒンギャ難民の問題を伝える報告会を行なった。4

4

(2) 会報の発行とウェブ・SNS からの情報発信

□今年度は、6-月、10月、12月、4月(2019年)と4回の「ジュマ・ネット通信」を発行した。また、フェイスブックでの発信を行い、3月末では911人の「いいね」を確保した。

紛争被害児童教育支援プログラムの対象の子どもたち



イティモニ・チャクマ(12歳) 7年生。4年前にモノゴールに来ました。すっかりこの場所にも慣れました。しっかり勉強できるのでうれしいです。英語が好きです。歌や踊りをもっと学びたいです。↩



コナック・チャクマ (16 歳)
12年生。モノゴールには10年前
に来ました。両親とも死に、兄弟
はいません。ここではたくさん友
人ができて、うれしいです。ギタ
ーと歌が好きで、よく歌っていま
す。



シリカ・チャクマ(12歳) 8年生。7年前に、お兄さんのリトンと一緒にここにきました。最初は寂しくつらかったです。今は慣れました。英語が好きです。また実家に戻るのが楽しみです。友だちとよく歌を歌ったり、踊ったりしています。



シンヨン・ムロ(20歳) 12年生。今はモノゴールを出て、家の近くの町のパンダルボン市で勉強しています。高卒認定試験の結果を待っています。 今パソコンのコースで学んでいます。これからも勉強を続けていきたいです。



リク・チャクマ(16歳) 9年生。7年前にお父さんが殺されてここにきました。勉強は 英語と宗教が好きです。あと友 達とクリケットやサッカーをよくします。将来は技術者の仕事が したいです。↩



ロディ・パンクォ(18 歳) 12 年生。高卒認定試験の結果 を待っている。12 年前にモノゴ ールにきました。英語や歴史が 好きです。歌と踊りも友達とやり ます。将来仕事がしたいです。⇔



アオジ・チャクマ (17歳)・ 11年生。7年前にここに弟のチッコドンと一緒にきました。勉強がしっかりできるので安心です。英語が好きです。将来は警察官になりたいです。⇔



モットリカ・トリプラ (21歳)』 12 年生。高卒認定試験の結果 を待っています。今年からはカ グラチャリ市にあるカレッジに通 います。今一生懸命勉強してい ます。いつか小学校の先生にな りたいと思っています。↩



リトン・チャクマ(18歳) 10 年生。8 年前にお父さんが 軍人に殺され、ここにきました。 だいぶ落ち着きました。将来は 医者になりたいです。自由な時 間にはよく絵を描いています。↩



プラン・バラ・トリプラ(18歳)
12 年生で、高卒認定試験の結果を待っています。母親が殺され、家に住めなくなり、3 年前にモノゴールにきました。今年からはカグラチャリ市にあるカッレジに通うことにします。英語や国語が好きです。↩



ソナマニ・チャクマ (20歳) 13 年生。もうここに 10 年もいま す。今は僧侶としてここで子ど もの世話をしています。好きな 科目は、科学、歴史、英語で す。将来は、何か社会に役立 てる仕事がしてみたいす。↩

2018年度 ジュマ・ネット特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

[税込](単位:円) 自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日 《経常収支の部》 「経常収支の部〕 【経常収入】 受取会費 417,000 受取寄付金 3, 391, 351 受取助成金 0 国内活動収益 0 販売事業収益 8,200 受取利息収入 14 経常収入 計 3, 816, 565 【事業費】 海外事業費 2, 333, 969 旅費交通費 124, 172 通信費 95,680 消耗品費 280 支払手数料 26, 242 出展費 11,880 印刷製本費 77, 534 仕入高 6, 198 当期事業費 計 2,675,955 合 計 2,675,955 事業費 計 2,675,955 【管理費】 通信運搬費 45, 162 事務用消耗品費 29,026 支払手数料 432 地代 家賃 259, 200 印刷 経費 282 管理費 計 334, 102 経常収支差額 806, 508 [その他資金収支の部] 【その他資金収入】 その他資金収入 計 0 当期収支差額 806, 508 前期繰越収支差額 4, 901, 010

5, 707, 518

次期繰越収支差額

^{*}寄附金には仏教NGOネットワーク(170万円)、WE21ジャパンの地域グループ5団体か

の 40 万円が含まれている。

2018年度 ジュマ・ネット特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

[税込](単位:円) 2010年 3月31日 租本

		2019年 3月31日 現任	
資産の	部	負 債 ・ 正 味 財	産の部
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		仮 受 金	0
現金	89, 639	流動負債 計	0
当座 預金	3, 069, 591	負債の部合計	0
普通 預金	2, 726, 981	正味財産の	部
現金・預金 計	5, 886, 211	【正味財産】	
		正味 財産	3, 005, 326
(その他流動資産)		(うち当期正味財産増加額)	2, 702, 192
仮 払 金	288	正味財産 計	5, 707, 518
貸倒引当金	△ 178, 981	正味財産の部合計	5, 707, 518
流動資産合計	5, 707, 518		
資産の部合計	5, 707, 518	負債・正味財産の部合計	5, 707, 518

2019 年度 活動計画

1 平和促進活動

(1) 「コルポナ・チャクマはどこへいった」のドキャメンタリーフィルムの閲覧の告知

2017 年度に完成した「コルポナ・チャクマはどこに」のショート・ビデオを、世界の人々に観てもらうための告知活動を、コルポナ・チャクマが誘拐された 6 月 12 日の前後に、ショート・ビデオの閲覧を促す情報発信をし、チッタゴン丘陵の問題意識を国内外に伝えていく。

(2) ロヒンギャ難民の安全な帰還のためのモニタリングと調査活動

ロヒンギャ難民の帰還作業は順調に進んでおらず、ミャンマー側の受け入れ体制も不透明な状態が続いており、難民のバングラデシュにおける生活の長期化が確定的になった。今後ロヒンギャ難民の安全な帰還と問題解決のために情報発信を継続していく。

(3) 北東インドのアッサム州、トリプラ州の人権問題の現地調査

ベンガル人イスラム教徒の人口増加と流入により、もともとそこに住んでいた先住民族との間に、土地利用や生活空間をめぐる抗争や襲撃事件が続いている。ミャンマーのロヒンギャを「南のロヒンギャ」とするならば、アッサム州、トリプラ州のベンガル人イスラム教徒は、「北のロヒンギャ」ということもできる。本年度は、こうした実態を調査し、活動の可能性をさぐっていく。

(4) 中国の新疆ウイグル自治区のウイグル民族弾圧に関する情報収集

中国政府による、新疆ウイグル自治区のウイグル民族への弾圧が続いている。その数は 100 万人も及ぶという情報があるにもかかわらず、国際社会や NGO の動きは鈍く、実態を伝える情報も限られている。この問題にジュマ・ネットとしてどうかかわれるか、2019 年度は国内で情報収集を行い、今後の行動計画を検討していく。

2 エスニック・マイノリティの被害者支援活動

(1) チッタゴン丘陵 児童・生徒の教育支援

ジュマ・ネットはチッタゴン丘陵の内紛が原因で修学機会を失った児童・生徒を対象に奨学金を提供し、学習支援を続けてきた。2018年度には11名の生徒のうち、6名の生徒が12年生を終了、1名の生徒が修学を望まない選択をした。新規の支援対象児童が2名増えたため、2019年度は計6名の以下の児童・生徒を支援する予定である。

2019 年度支援予定児童・生徒



モンプリ・チャクマ

9歳で、3年生です。モノゴールに来て2年目になります。小さい頃悲 しい事件に遭い、勉学をつんで自立する決意し、このモノゴールにや ってきました。最初はモノゴールに慣れず、緊張していましたが、最近 は、友達もでき、笑顔が多くなってきました。

勉強は英語が好きで、お友達とおしゃべりするのが好きです。



イティモニ・チャクマ

13歳で7年生です。モノゴールに来て、もう5年目になります。小さいころ悲しい事件に遭い、ジュマ・ネットの支援で、モノゴールで学ぶことになりました。以前はほとんど笑わない子どもだったのですが、最近はこんなに笑う元気な女の子になりました。好きな科目は英語と歴史です。



リペン・トリプラ

14歳で9年生です。モノゴールに来て、まだ1年目です。家庭が非常に貧しく、周辺のベンガル人に脅される生活だったため、現地のNGOスタッフと相談して、モノゴールで学ぶことになりました。まだ生活に慣れないのか、言葉少なく語ってくれます。



シリカ・チャクマ

14歳で9年生です。兄のリトンと一緒にこのモノゴールに6年前にやってきました。笑顔で少しやんちゃな女の子になりました。一度勉強が嫌いになり、実家に戻ったこともありましたが、心を入れ替え、再度モノゴールでチャレンジしています。



リク・チャクマ

17歳で9年生になります。お父さんがベンガル人に殺され、お兄さんと7年前にこのモノゴールで学び始めました。2年前に内耳炎がもとで、聴覚障害者となってしまい、しばらく勉強を続けるか悩んでいましたが、今年からはパン屋で修業をすることを決意しました。



リトン・チャクマ

19歳で10年生になります。軍人にお父さんが撃ち殺され、勉強の機会を失いそうな時に、ジュマ・ネット支援で妹のシリカと一緒に6年前にモノゴールにやってきました。高校認定試験に一度落ちましたが、今年の5月にとうとう合格し、短大に進学することに決まりました。

3 国内広報活動

(1) ロヒンギャ問題解決を伝える場づくり

長く続くロヒンギャ問題の構造とともに、それを解決するための出口戦略のあり方を、各方面の専門家とともに考える場づくりに努める。

(2) グローバルフェスタ、その他のイベントへの出展

国内の広報が効果的と思われるイベント等に出展し、ジュマやロヒンギャなどのエスニック・マイノリティの人権問題を伝えていく。

(3) SNS などのメディアの活用

ウェブサイト、フェイスブックなどの SNS の活用、メールマガジンや会報の発行などを通じて、定期的な情報発信をこころがける。

以上

	201	19年度 予算書		
[経常収支の部]				
【経常収入】		2018年決算案	2019年予算案	備考
	個人会員	327,000	300,000	6,000円×50口
会費収入	団体会員	90,000		20,000円×6口
23000	小計	417,000	420,000	20,000, 3 0 0
寄付金収入	寄付	1,391,351	800.000	
	E1 / 1	1,001,001	000,000	
	小計	1,391,351	800,000	
	日本仏教NGOネットワーク	2,000,000	0	
助成金	小計	2,000,000	0	
国内活動収益ブックレット販売、その他の販売事業		8,200	10,000	
利息収入		14	,	
経常収入 計		3,816,565	1,230,000	
1211				
【事業費】				
	ロヒンギャ緊急支援	2,000,000	150,000	
	紛争被害児童教育支援	333,969	300.000	
海外事業費	旅費交通費	124,172		現地出張経費
		2,458,141	600,000	
	販売事業の仕入代金等	6,198	10.000	
商品仕入れ高	放光事業の任人代金寺 小計	6,198	10,000	
	通信運搬費	95,680	100,000	
	消耗品費	280	300	
	支払い手数料	26,242	30,000	
国内活動費	出展料	11,880	12,000	
	印刷製本費	77.534	80.000	
	小計	211,616	222,300	
事業費 計	7.81	2,675,955	832,300	
		2,070,000	002,000	
【管理費】		*		
旅費交通費		0	30,000	
通信運搬費		45,162	50,000	
消耗品費		29,026	30,000	
修繕費		0	10,000	
支払手数料		432	1,000	
地代 家賃		259,200	260,000	
印刷製本費		282	2,000	
雑費		0	10,000	
	管理費 計	334,102	393,000	
	【事業費】+【管理費】	3,010,057	1,225,300	
	経常収支差額	806,508	4,700	
	前期繰越収支差額	4,901,010	5,707,518	
	次期繰越収支差額見込み	5,707,518	5,712,218	

	2019 年度ジュマ・ネット役員				
共同代	共同代表(2名)				
下得	i ik	大学教員			
F-2	ム・エスキルセン	通訳			
運営委	運営委員(4名)				
安護	喜 淳哉	会社員			
木柱	f 真希子	大学數員			
BT	部 尚德	大学數員			
白岩	한 참구	自治体職員			
プドバ	プドバイザー委員(9名)				
上柱	f 英明	大学數員/NGO代表			
枝木	· 美香	NGOスタッフ			
郡田	7 真号	ジュマ・ネット会員			
小身	を 雑弘	NGO理事			
渋名	S 數志	フォトジャーナリスト			
田中	2 治療	大学教員			
ディ	ィプティ・ションコール・チャクマ	会社員			
野口	1 陽一	団体理事			
持田	1 責信	僧侶			
監事(監事 (2名)				
今村	† 公保	僧侶			
福港	■ 郁文	デザイン会社取締役			

ジュマ・ネットの ミッション

エスニック・マイノリティの 人々が、平和な社会に暮らし、 基本的な人権が守られ、自立 的な発展が保障される社会を 目指す。

ジュマ・ネットの歩み

2002年

4月、日本人ボランティアと在日ジュマでジュマの正月行事「ボイサビ」を実施。

2003年

8月、カグラチョリ県マハルチョリの襲撃事件が発生。緊 急支援活動を実施する。

11月、ジュマ・ネットの設立総会が開催される。

2004年

11月、ジュマ・ネットの事務所開設。 12月、入管に拘束されたディプティさんを救う緊急行動 市民の会に参加し、協力。

2005年

2月、第1回平和ミッションを実施。13名が参加。

2006年

3月、マイメンシン県のエコ・パーク建設反対活動を支援。 7月、「コルナフリの涙」上映・DVDの発売

2007年

6月、チッタゴン丘陵国際委員会の結成に関わる。その後委員会の支援を継続する。

11月、チッタゴン丘陵白書完成、出版。

2008年

7月、販売事業を開始。

12月、ランライ氏とボクール氏の釈放のための署名キャンペーンを実施。

2010年

2月、バングラデシュ首相に「チッタゴン丘陵和平協定の 完全実施を求める要請書」を手渡す。

2011年

5月、国連の先住民族問題常設フォーラムに参加。その後、毎年参加を続ける。

2012年

2月、事務所を秋葉原に移転。

2014年

5月、NGO3団体で、エスニック・フェスタを開催する。

2015年

5月、新しいチッタゴン丘陵白書を出版。 9月、チッタゴン丘陵和平協定実施を求めて、国際署名 キャンペーンに参加。

2016年

8月、ナガランドを訪問し、連携を探る。

2017年

3月、5月、9月、10月、バングラデシュのロヒンギャ難民の支援活動を展開。

6月「コルポナ・チャクマはどこへ」のショートビデオ作成。 6月に発生したロングドゥ・ジュマ襲撃事件被害者、土砂 災害被害者への支援活動を実施。

2018年

6月から8月にかけて、ロヒンギャ難民キャンプに156基の簡易トイレを設置する。



〒110-0005東京都台東区上野5-3-4 クリエイティブ One秋葉原ビル6F 電話・FAX 03-3831-1072

E-mail: jummanet@gmail.com Web: http://www.jummanet.org/